

金型の計数は多岐にわたる。生産額(2023年)で見ると、愛知県が2160億円でダントツのトップである。2位が静岡県で970億円、3位は大阪府の960億円、4位の神奈川県の830億円、5位は岐阜県で640億円。続いて広島、長野、新潟、群馬、埼玉県となっている。岐阜県の地場産業は数多くあるが、繊維、陶磁器、刃物、木工に加え、金型も地場産業にランクインされてもいいのではないか。前回、米国の金型生産が中国に次いで第2位と記したが、大型機



日本の県別生産額ランキング

大垣精工会長 上田勝弘

械を統計に加えているため、実質的には日本が第2位である。

私が社団法人日本金型工業会の会長に推薦されたのは01年、小泉内閣誕生と同時期だった。東京、名古屋、大阪の支部と東京の本部事務所の4力所でスタートした。会長として業界の歴史や現状、将来への展望を世界的な視野で考えると、業界の問題点が見えてくる。

まずは学校での金型教育の問題である。韓国や中国で大学の金型学科を見学した。日本の大学には金型専門の学科が存在しない。中国では金型学科があり金型製作の基礎学習のヤスリガケを教えているのを目の当たりにした。日本では社会に出てから企業内で実習を行っている。これでは中国や韓国、ヨーロッパに負けることになる。

危機感を抱き、日本の大学に金型学科を作るべきとの構想を胸に帰国した。経済産業省へ出向き海外の情勢を報告、構想を打ち明けたが、取り上げてもらえない。日本の金型製作は終戦後の町工場が原点で、技術の伝承や最新技術の開発は金型メーカーに任されていたのである。